

## 〈研究論文〉

### 教育実習における事前指導の内容の検討 —教育実習前後の大学生を対象とした質問紙調査から—

西村三郎(愛知教育大学)

北川修平(愛知教育大学)

#### I. 研究目的

教育実習とは、大学を卒業後に教員として就職することを希望する学生を対象に、学校という教育現場で授業等を行うとともに、児童・生徒と関わりながら、教員の業務内容を理解するための実習である。

他方で、基本的に、教育実習を行うにあたって、事前に各大学で教育実習の事前指導が行われている。その内容に関しては、教材研究、学習指導案の作成、模擬授業などが行われている(三浦, 2015)。教育実習を有意義に行うには、その準備である事前指導を充実させることは非常に重要であると考えられる。よって、この事前指導の内容に関しては、ある程度、各大学に裁量が与えられていると考えられるが、指導内容を充実させるために検討することは重要である。そして、その指導内容を検討するにあたって、教育実習を行う学生がどのような課題を教育実習に感じているのか、また、教育実習を行った学生が自身の経験を踏まえてどのような事前準備が必要だと感じているのか、当事者である大学生の視点から検討することも有意義であると考えられる。

そこで、本研究では、より有意義に教育実習を行うための事前指導の内容を検討するために、教育実習前および後の大学生の教育実習に対する考えを明らかにすることを目的とした。

#### II. 方法

##### 1. 対象者

本研究の対象は、体育・スポーツ科学を専攻しており教職課程を履修している大学生60人であった。そのうち、教育実習を実施する前の3年生が30人、教育実習を実施した後の4年生が30人であった。

##### 2. 質問紙の作成

先行研究(三浦, 2015)を参考に、教育実習を実施する前の3年生用の質問紙と教育実習を実施した後の4年生用の質問紙を作成した。質問項目は以下に示した通りである。なお、( )内は、4年生用の質問紙の表記である。質問紙は、「あてはまらない」、「ややあてはまらない」、「どちらでもない」、「ややあてはまる」、「あてはまる」の5件法であり、質問項目は合計21項目であった。

#### 【質問項目】

1. 体育授業で実技の見本を見せられるように練習をしておいた方が良いと思う(良かった)。
2. 体育の模擬授業をやっておいた方が良いと思う(良かった)。
3. 体育の授業のために、色々なスポーツの知識や技能を学んでおいた方が良いと思う(良かった)。
4. 保健の知識を、教科書等を勉強して増やしておいた方が良いと思う(良かった)。
5. 保健の模擬授業をやっておいた方が良いと思う(良かった)。
6. 保健の授業のために、教科書以外の資料や教材を準備しておけば良いと思う(良かった)。
7. 道徳の知識を、教科書等を読んで増やしておいた方が良いと思う(良かった)。
8. 道徳の模擬授業をやっておいた方が良いと思う(良かった)。
9. 道徳の授業のために、教科書以外の資料や教材を準備すれば良いと思う(良かった)。
10. 授業へのタブレットの取り入れ方を勉強しておいた方が良いと思う(良かった)。
11. 授業内でのパワーポイントの使い方を勉強しておいた方が良いと思う(良かった)。
12. 授業内でのプロジェクターの使い方を勉強しておいた方が良いと思う(良かった)。
13. 大人数の前で話をする練習をしておいた方が良いと思う(良かった)。
14. 授業中の生徒への褒め方や叱り方を勉強しておいた方が良いと思う(良かった)。
15. 板書の練習をしておいた方が良いと思う(良かった)。
16. 挨拶などを通して、もっと積極的に関われば良いと思う(良かった)。
17. 生徒と話す時の、言葉の使い方(若者言葉等)について、もっと勉強しておいた方が良いと思う(良かった)。
18. 教師としての立場を保てるように、生徒との距離感について勉強しておいた方が良いと思う(良かった)。
19. 困った時に、クラス担当の先生にもっと相談すれば良いと思う(良かった)。
20. 困った時に、教科担当の先生にもっと相談しておけば良いと思う(良かった)。
21. 困った時に、他の教育実習生にもっと相談した方が良いと思う(良かった)。

下位尺度は、体育(質問項目1~3)、保健(質問項目4~6)、道徳(質問項目7~9)、ICT活用(質問項目10~12)、指導行動(質問項目13~15)、生徒との関わり(質問項目16~18)、教員との関わり(質問項目19~21)

)の7項目で、下位尺度一つにつき、3つずつ質問項目を作成した。なお、回答を依頼する際には、質問項目の順序をランダムにした。

### 3. データの収集

対象者に対面で質問紙調査の記入を依頼した。また、質問紙調査の記入に先立ち、口頭で研究の目的や意義、記入方法を説明し、研究に協力すること、および質問紙への回答の結果を論文として公表することに同意を得た後に、回答を依頼した。

### 4. データの分析

質問紙集計後、5件法の「あてはまる」を5点、「あてはまらない」を1点として、3年生と4年生の各質問項目の平均値と標準偏差を算出した。さらに、下位尺度別にも平均値と標準偏差を算出した。3年生と4年生の平均値を比較するために、各質問項目および下位尺度に関して、等分散を仮定しない対応のない検定を行った。なお、その際の有意水準は5%とした。

## Ⅲ. 結果

### 1. 質問項目

最も平均値が高い質問項目は、3年生では「2. 体育の模擬授業をやっておいた方が良いと思う」、4年生では「1. 体育授業で実技の見本を見せられるように練習をしておいた方が良かった」であった。

最も平均値が低い質問項目は、3年生では「10. 授業へのタブレットの取り入れ方を勉強しておいた方が良いと思う」、4年生では「21. 困った時に、他の教育実習生にもっと相談した方が良かった」であった。

3年生と4年生の間で有意差が見られた質問項目は、「2. 体育の模擬授業をやっておいた方が良いと思う(良かった)」、「5. 保健の模擬授業をやっておいた方が良いと思う(良かった)」、「9. 道徳の授業のために、教科書以外の資料や教材を準備すれば良いと思う(良かった)」、「11. 授業内でのパワーポイントの使い方を勉強しておいた方が良いと思う(良かった)」、「12. 授業内でのプロジェクターの使い方を勉強しておいた方が良いと思う(良かった)」、「13. 人前で話す練習をしておいた方が良いと思う(良かった)」、「15. 板書の練習をしておいた方が良いと思う(良かった)」、「19. 困った時に、クラス担当の先生にもっと相談した方が良いと思う(良かった)」、「20. 困った時に、教科担当の先生にもっと相談した方が良いと思う(良かった)」、「21. 困った時に、他の教育実習生にもっと相談した方が良かったと思う(良かった)」の10項目であった。

### 2. 下位尺度

最も平均値が高い下位尺度は、3年生、4年生ともに「体育」であった。また、最も平均値が低い質問項目は、3年生、4年生ともに「ICT活用」であった。

3年生と4年生の間で有意差が見られた下位尺度は、「1.体育」、「2.保健」、「3.道徳」、「4.ICT活用」、「5.指導行動」、「6.教師との関わり」であった。

## Ⅳ. 考察

各質問項目の平均値に着目すると、11の質問項目において4年生は3年生よりも、有意に低い値を示した。また、それ以外の質問項目においても、4年生は3年生よりも有意に小さな値を示したことから、3年生は4年生よりも全体的に低い値を示したと言える。この理由として、教育実習を行う前の3年生は、教育実習に対して漠然とした不安を抱いていたためであると考えられる。逆に、4年生は、教育実習を行うことで、教育実習の実態を把握することができたため、3年生よりも低い値を示したと考えられる。以上のことから、3年生と4年生の間で有意差が見られない分析項目は、4年生が教育実習を行った後でも、継続して重要だと感じていた質問項目であり、教育実習の事前指導を行う際に、重点的な指導が必要なものであると考えられる。

表1: 各質問項目における平均値と標準偏差

質問項目	3年生		4年生		t検定
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	
1. 体育授業で実技の見本を見せられるように練習をしておいた方が良かった。	4.73	0.45	4.33	1.06	6.5%
2. 体育の模擬授業をやっておいた方が良かった。	4.83	0.38	4.21	1.15	0.8% *
3. 体育の授業のために、色々なスポーツの知識や技能を学んでおいた方が良かった。	4.63	0.61	4.23	1.04	7.6%
4. 保健の知識を、教科書等を勉強して増やしておいた方が良かった。	4.73	0.52	4.30	1.17	8.3%
5. 保健の模擬授業を行った方が良かった。	4.70	0.53	4.00	1.24	1.0% *
6. 保健の授業のために、教科書以外の資料や教材を準備しておけば良かった。	4.40	0.77	4.19	1.00	37.2%
7. 道徳の知識を、教科書等を読んで増やしておいた方が良かった。	4.23	0.77	3.76	1.30	11.8%
8. 道徳の模擬授業をやっておいた方が良かった。	4.17	0.91	3.83	1.20	26.8%
9. 道徳の授業のために、教科書以外の資料や教材を準備すれば良かった。	4.23	0.94	3.60	1.19	3.6% *
10. 授業へのタブレットの取り入れ方を勉強しておいた方が良かった。	3.90	0.99	3.41	1.30	11.3%
11. 授業内でのパワーポイントの使い方を勉強しておいた方が良かった。	4.43	0.73	3.14	1.46	0.0% *
12. 授業内でのプロジェクターの使い方を勉強しておいた方が良かった。	4.20	0.85	3.25	1.17	0.1% *
13. 大人数の前で話をする練習をしておいた方が良かった。	4.37	0.93	3.37	1.61	0.5% *
14. 授業中の生徒への褒め方や叱り方を勉強しておいた方が良かった。	4.07	1.08	3.97	1.03	71.5%
15. 板書の練習をしておいた方が良かった。	4.50	0.68	3.80	1.42	2.0% *
16. 挨拶などを通して、もっと積極的に関われば良かった。	4.57	0.63	4.30	1.09	25.0%
17. 生徒と話す時の、言葉の使い方(若者言葉等)について、もっと勉強しておいた方が良かった。	3.97	1.10	3.47	1.36	12.2%
18. 教師としての立場を保てるように、生徒との距離感について勉強しておいた方が良かった。	4.37	0.89	3.90	1.09	7.5%
19. 困った時に、クラス担当の先生にもっと相談すれば良かった。	4.60	0.50	3.80	1.03	0.0% *
20. 困った時に、教科担当の先生にもっと相談しておけば良かった。	4.50	0.73	4.00	1.05	3.7% *
21. 困った時に、他の教育実習生にもっと相談した方が良かった。	4.30	0.88	2.97	1.38	0.0% *

\*:  $p < .05$

表2: 各下位尺度における平均値と標準偏差

下位尺度	3年生		4年生		t検定
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	
1. 体育	4.73	0.34	4.27	0.83	0.6% *
2. 保健	4.62	0.49	4.16	0.94	2.1% *
3. 道徳	4.26	0.78	3.75	1.02	4.0% *
4. ICT活用	4.19	0.70	3.34	1.04	0.0% *
5. 指導行動	4.30	0.65	3.71	1.03	1.0% *
6. 生徒との関わり	4.26	0.63	3.89	0.86	6.5%
7. 教師との関わり	4.42	0.51	3.59	0.90	0.0% *

\*:  $p < .05$ 

そこで、各質問項目に着目すると、体育に関する質問項目(質問項目1~3)において、「体育の模擬授業をやっておいた方が良いと思う(良かった)」において、3年生と4年生の間に有意差が見られ、4年生にとって、3年生が感じるよりも相対的に重要性が下がっていた。この理由として、教育実習を通して、何度も実際の体育授業を行うことで、授業をマネジメントすることができるようになるためであると考えられる。他方で、「体育授業で実技の見本を見せられるように練習をしておいた方が良いと思う(良かった)。」や「体育の授業のために、色々なスポーツの知識や技能を学んでおいた方が良いと思う(良かった)。」といった、質問項目では有意差が見られず、4年生にとっても引き続き、重要なものであると言える。おそらく、体育授業で見本を見せられるようになることや、体育授業を計画、実践するにあたって必要となる、様々なスポーツの知識を習得することは、教育実習という短期間で身に着けることは難しいためであると考えられる。よって、これらの質問項目に関する指導内容は、教育実習の事前指導を行う際に、重点的な指導が必要なものであると考えられる。一方で、このような教育実習を通して多くの授業を実践することができるため、教育実習後の4年生が模擬授業の経験を重要視しないという結果は、体育と異なる科目である保健においても同様の結果が得られた。

他方で、保健や道徳といった体育とは異なる教科においては、異なる結果が得られた。道徳に関する質問項目(7~9)に着目すると、模擬授業に関する「道徳の模擬授業をやっておいた方が良かった。」では、3年生と4年生の間で有意差が見られず、4年生は引き続き、道徳の模擬授業に関しては事前準備の必要性を感じていた。これは、体育・スポーツ科学を専攻する学生にとって、体育や保健といった自身が専門とする教科とは異なるため、大学の教職課程で相対的に学習する機会が少なかったためではないかと考えられる。また、質問項目7の「道徳の知識を、教科書等を読んで増やしておいた方が良かった。」では有意差が見られたものの、質問項目9の「道徳の授業のために、教科書以外の資料や教材を準備すれば良かった。」では有意差が見られなかった。これは、各実習校において、教科書を中心とした授業が進められており、教育実習生にとって、まずは教科書を中心とした授業の準備の重要性を示唆している。

ICT活用に関する質問項目では、質問項目11、12といったパワーポイントやプロジェクターに関するものでは、4年生は3年生よりも有意に低い値を示したが、質問項目10のタブレットの取り入れ方に関しては、有意差が見られなかった。これらのことから、教育実習を通して、パワーポイントやプロジェクターなどは活用するにあたり、特段の支障を感じなかったが、タブレットの有効な取り入れ方については、課題を感じたことが伺える。

指導行動に関する質問項目では、質問項目13、15等の大人数の前で話をする練習や板書の練習といった、授業全体をマネジメントする行動に関しては、4年生は3年生よりも有意に低い値を示した。一方で、質問項目14の授業中の生徒への褒め方や叱り方といった、個々の生徒と関わる行動に関しては有意差が見られず、4年生においても引き続き重要であると感じていたことが伺える。大人数の前で話をしたり板書をしたりすることは、効果的な話し方や板書の仕方が比較的明確であるため、それらの技能を向上させやすいと考えられるが、褒め方や叱り方といった個々の生徒との関わりは、生徒によって適切な対応が異なるため、4年生においても引き続き重要であると感じていたと考えられる。

生徒との関わりに関する質問項目では、全ての質問項目(質問項目16、17、18)において、有意差が見られなかった。このことから、挨拶、言葉の使い方、生徒との距離感といった授業外での生徒との関わりに関しても、4年生は依然、重要なものであると感じていたと考えられる。

他方で、本研究では、教育実習を実施する前の大学3年生と教育実習を実施した後の大学4年生という異なる対象者を対象として、分析を行っている。そのため、元々の対象者の特徴が結果に反映されている可能性が考えられる。よって、今後、同一の大学生を対象として、教育実習前後に調査を行うことで、より詳細に、教育実習を行うにあたり、大学生が重要性を感じるものに関する変化を明らかにすることができると考えられる。

【文献】

三浦朋子(2015)教育実習事前・事後指導のあり方に関する一考察：実習前後における学生の認識変化分析を通じて. 亜細亜大学課程教育研究紀要3:1-14.